

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190800033		
法人名	有限会社 きずなの里		
事業所名	みやまの里		
所在地	岐阜県山県市富永 754-5		
自己評価作成日	平成28年11月11日	評価結果市町村受理日	平成29年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190800033-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190800033-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境の中で、季節の変化や近隣の人々との交流を楽しみながら 思い思いの暮らしをして頂けるような支援を目指しています。利用者お一人お一人の個性や能力を大切に、ご自身の力で生きていかれるお手伝いをさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の玄関前には、桜の木が立ち並び、利用者が、拾った落ち葉を利用して、見事な作品を作ったり、ドングリ拾いに来る保育園児との交流の場ともなっている。職員は、全ての利用者や家族の思いが実現できる環境作りを目指しており、家族会の連絡網を整備し、互いに何でも言える信頼関係の構築に努めている。職員二名で三名の利用者を担当し、利用者一人ひとりの思いや生活リズム、持っている力を十分把握し、自立支援に取り組んでいる。また、事業所は、手洗いや清掃等を徹底して行い、生活臭ゼロ、感染症ゼロの継続に取り組み、実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時、内玄関に掲示してある理念の額を確認し、毎日心を新たに業務に就けるよう工夫している。さらに、各自のロッカーに各々の年間目標を貼り、それを見ることで、思いを確認してケアに当たれるように努めている。	全職員が、「誠心・誠意・まごころ込めて」の理念を、日々、目で確認し、ミーティングでも理念を共有しながら、ケアの実践を行なっている。利用者一人ひとりの個性や能力を大切にして、自立に向けた暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に準会員として参加し、地域に根差した施設運営に努めるよう努力をしている。また、施設イベントの際には、近隣へのお誘いをする事で、利用者とのつながりを強化するように努めている。挨拶、声掛け、農作物のやり取りなどの交流にも努めている。	利用者は、公民館で行われる音楽会や、寺の餅まき等に参加している。事業所の各種イベントの際は、近隣に参加を呼びかけている。地域住民も高齢化し、事業所へ出掛けてくることが難しいが、外出先での挨拶や、野菜のやり取り等を継続し、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な機会を通じて、利用者を知っていただくことや、認知症の理解、その対応などを解っていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回は運営会議を実践し、事業内容や、その時々の問題など話し合ってください。施設に対する理解を得るとともに、アドバイスや提言などを頂き、それを運営やサービスに活かしている。	会議には、毎回、協力医、看護師等も参加している。利用者の現状や事業所の取り組み等を報告し、直面している課題等を率直に伝えている。また、感染症やケア内容についても話し合うなど、有意義な会議となっている。会議で出された意見や提案を、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者であるが、運営会議だけでなく、普段の交流の中で、相談事をしたり、疑問の解決にアドバイスを頂いたり、良好な関係を結んでいる。	管理者は、日頃から行政窓口足を運び、事業所の現状を伝え、様々な課題について、気軽に相談できる関係を構築している。地域包括支援センターには、ケアの困難事例を伝え、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠はせず、権利擁護推進員養成講習参加者を中心に、施設内研修や、日々の実践をとおして、職員全員で思いを共有し、拘束の無いケアに努めている。	「権利擁護推進員養成研修」を受講した職員による伝達学習を通して、全職員が、身体拘束をしないケアについて、正しく理解している。時として出る「ちょっと待ってね」という言葉や対応についても、職員間で意見交換し、全職員で統一した対応を行なうよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、研修参加者を中心に、利用者の尊厳を損なうことの無いケアに努めるよう努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員養成講座、成年後見制度など、なじみの少ない研修であるが、率先して参加し、また、それを職員へ伝達講習で伝えることで、知識として身に着けるとともに、実践できるように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には時間をかけて説明し、自宅へ持ち帰ってさらに読み込みができるよう十分な余裕をもって契約に当たっている。さらに必要時には直接面談やイベント時に説明会を設けることで理解を頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設イベントなど、ご家族が集まる機会を利用し、ご意見をうかがうよう努めるとともに、面会においての時などの日常の時間においても、お話を伺える時間を作るよう努めている。さらに家族会名簿を作成し、直接言えないことも、家族同士でまとめて提言していただけのご案内をしている。	事業所創立記念日、夏まつり、新年会の3行事を家族会と併せて行い、全員が参加している。行事の中で、預かり金収支の確認、新しい利用者や職員紹介等を行なっている。また、利用者や家族の意見や希望などを聞き、運営に反映させ、より良いサービス提供を目指している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のミーティングはもとより、普段の会話や、スタッフノートなど、様々な機会を捉えて、お健也提案を聴いている。また、その意見は大切に取り扱い、代表者とも十分に検討するよう努めている。	様々なケア場面での気づきや提案、勤務面での要望等は、スタッフの連絡ノートを活用したり、ミーティングで話し合っている。管理者は、出来ることから迅速に対応を行ない、職員の働く意欲や、利用者サービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者の務めの主だったものの一つには、職員が気分よく毎日出勤できるようにすることであることを理解し、そのための環境や条件を整えることに努めている。また、各自の自己評価や、考課などを考慮し、それぞれの処遇に活かせるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を希望する物に対しては、勤務の融通をつけたり、参加費の補助をするなど、受けやすい環境を作っている。努めながら資格取得ができるように融通をつけることもしかり。職員一人一人が高いモチベーションで業務に当たれるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前、市のリードでネットワーク作りを始めたことがあるが、いつか頓挫。その後は独自で、交流を続けている。今年はできなかったが、他施設での研修も計画し、実践してもらった。情報の交換や、悩みごとの相談などもできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所を決定するまでに、複数の職員とご本人が出会える機会を設けることで、入所に至った時点で、なじみの顔があるようにすることをはじめとし、その思いをうかがえる時間を作ることで、初めから無駄な緊張や不安を取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、研修参加者を中心に、利用者の尊厳を損なうことの無いケアに努めるよう努力をしている。入所までに何度も出会える機会を作ることで、お互いをよく知り、遠慮なく、要望などが言い合えるような関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何度もお話を伺う中で、その思いや重要性などを考慮し、当施設の利害を考えるのではなく、ご本人や、そのご家族に必要とされている支援を追及するよう努めている。また、正直にお話しし、他のサービスとの連携にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに不足とする部分を補い合う関係作りに努めている。ご本人の能力や好みを考えて、助けていただけそうなことは助けていただけよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時には絶対に「お任せください」とは言わないように努めている。ご家族と私たちが力を合わせてご本人にとって 最も安心できる穏やかな生活を提供できるようにしていこうと話している。そのためには、ご家族にご協力いただくことがたくさんあり、遠慮せずお願いすることをご承知いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と、入所前の社会との関係を閉ざすようなことは一切しない。また、かかわりを続行しようと思えば、それに対する協力は惜しまない。	家族や知人等の面会時には、雰囲気作りに心がけ、茶でもてなしながら、利用者と一緒に来訪を歓迎し、再来の声かけで見送り、次の訪問に繋がるよう努めている。利用者が会いたい人へは、本人が手紙を書いたり、電話をかける等、職員が協力し、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの存在を認めあって頂くことは大切な事であるので、お仲間だという意識を持てるような関係に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あらゆる理由から、施設を離れられても、同じように対応している。病院や他の施設への面会や、お電話での相談事への対応、お手紙のやり取りなど、必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のモニタリングだけでなく、生活の中での会話や態度などから、その思いをくみ取るようにつとめ、できる限りその思いには応じられるように努力をしている。	職員は、利用者とのコミュニケーションを常に意識し、寄り添うケアの中で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をより深く把握している。その把握した内容について、受け止め方が偏らないよう、職員二人で、三名の利用者担当制を取り入れている。	管理者は、利用者の加齢による重度化は避けられないが、最後まで、利用者に満足いく支援を提供すべく、職員教育や充足に取り組んでいる。今後も継続して、その思いを職員と共有し、より良いサービスの向上に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りや、アセスメントだけでなく、その後の生活の中で、会話や、行動から様々な情報を入手につとめ、それを記録に残すことで、職員全員の共有とできるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック時の観察だけでなく、生活全般を見守ることで、その把握に努めている。また、その変化も敏感に察知することで、その後の対応についての検討がしやすいように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時のケースカンファレンスや、モニタリング、生活の支援をする中での言動、面会時の家族との会話などから、情報を得、介護計画作成に活かしている。実行中の計画に対し、職員から意見が出て、変更や追加を重ねることもある。	計画作成担当者が、モニタリングをしながら、前回の課題を解決する方向で取り組んでいる。利用者の言動、家族からの情報、訪問リハビリ担当者の意見等を反映し、職員の気づきや意見に応じて、変更や追加を行ない、柔軟に見直す等、現状に即したものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルには、毎日きちんと記録を残し、職員間での情報の共有に活かすだけでなく、主治医の治療を効果的にするための資料ともなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化というものがかっちりわかってはいないが、ご家族の希望でお泊りの支援をしたり、市からの要請で、災害時の要援護者の緊急避難所としても契約を締結している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や外食お買い物など、利用者に変化のある生活を営んでいただくための手段として、段差のないスーパーや外食施設など、情報を収集している。不自由な思いをせず、食生活を愉むために、すぐに往診してくださる歯科医なども調べて提携している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異基本的に、入所前のかかりつけ医を変更する必要はないが、現在の利用者は、全て施設の提携医での受診を望んでおられる。緊密に連携を取りながら、毎週1回の訪問診療を受けており、必要な処方や検査も受けられ、大きな医療機関への連携も摂ってくださっている。	かかりつけ医の継続希望に対応しているが、現在は、全員が協力医をかかりつけ医とし、週1回の往診を受けている。必要に応じ、訪問マッサージや歯科医の往診もある。救急病院や、専門病院等の受診は、家族、職員、協力医との連携を密にし、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師でもあり、介護職と、訪問看護との橋渡しはしっかりできている。また、そのため、異常のそうきはつけんや、素早い医療連携にも効果が出ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	上記同様、医療機関との情報交換や、素早い入退院の対応などにも応じることができる。日ごろの関係も良好に保たれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話し合いを持つが、それだけでなく、日々の状況の変化時にはその都度話し合いを持ち、流動的な思いにも対応できるようにしている。またそれらは主治医とも情報を交換しながら行われている。	重度化や、終末期に向けた事業所の指針があり、看取り体制があることを、契約時に、家族に説明している。状態の変化時には、協力医を交えて関係者が何度も話し合い、本人や家族の意向に合わせ、事業所での介護ができる限界まで、方針を一つにして支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	念2回の防災訓練の折には、毎回、対応の訓練や、講習を受けている。勤続年数の屈職員が多く、訓練や講習の成果を発揮している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	念2回の防災訓練を実施している。それには近隣住民の協力も得、担当消防署は毎回参加して下さっている。夜間想定での職員の駆けつけ訓練もしている。	事業所は、災害発生時における福祉避難所として、市と協定を締結している。利用者の各居室には、防災頭巾を備えている。災害時には、近隣住民の協力を得られる関係作りが出来ており、年2回の防災訓練と水害を想定した訓練を行い、備蓄も完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内外の研修にも参加し、普段から、銘々心がけてはいるが、小規模の施設でもあり、どうしても関係が濃密になり、なれ合いが生じやすくなる。一定の栓を引いたかかわりを持つよう心がけてはいるが、ともすると出過ぎた言動を見かけることがある。	「誠心、誠意、真心こめて」の理念は、利用者の人格を尊重し、プライバシーを守ることを基本としており、職員全員が共有している。排泄、入浴等のケアには、特に利用者の羞恥心に配慮し、慣れ合いから出る言動や対応はないか、日々のケアやミーティングで振り返り、職員間で確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者側にもなれ合いが生じやすく、強い我儘がでたり、かなえることの不可能な要望が出たりすることがあるが、反対に、何も思いを表出されない方もある。どなたにとっても、気分よく思いがかなえられるような環境作りをしたいと思っている。努力はしているがなかなか自己決定能力の増加は困難。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制的な生活をもっとしているが、唯一入浴だけは、施設の決まりを通させていたでいる。業務遂行の上でも、職員数の問題においても、夜間の入浴には対応することができない。ただ、排泄の失敗などでの身体汚染に対しては例外である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性でも比較的身だしなみに無頓着になっておられる方が多いが、洗面時の鏡に向かわれた際には、意識的に整容や、衣服についてのアドバイスなどをするよう努めている。おしゃれな方に対しては、できる限りご要望にはお応えするよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝いは無理な方ばかりであるが、食材の選別や、下ごしらえなどを通じて、食事の支度の楽しさを共有している。個々のお好みに応じた食材の購入や、調理法、盛り付けなど工夫をしている。	食材調達と献立は業者によるが、週2日は、事業所独自の献立で、利用者の楽しみに繋げている。事業所の畑で収穫した野菜を食材にし、手作りの梅干し・漬物等で家庭的で美味しい食事を、利用者と職員と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全てチェックをし、記録に残すことで、個々の利用者の状況を把握し、対応に活用している。またそれを主治医に報告することで加療の一助となるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の清潔だけでなく、毎食後の口腔ケアの同行し、お手伝いをしている。その時の観察を歯科医や主治医とも共有をし、利用者の食生活に良い影響を及ぼすことができるよう努力をしている。また、義歯の手入れについてもしかり。		

岐阜県 グループホームみやまの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に、紙おむつは使用しないようにし、なるべく布パンツでの対応に心がけている。個々の体調や習慣を考慮し、声掛けや誘導をすることで、失敗を減らし、ご本人のプライドをお守りするよう努めている。現在夜間に一人のみおむつ使用している。居室にポータブルトイレはおかず、トイレを使用する。	職員は、利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、適切なタイミングで、声掛けとトイレ誘導を行っている。ほとんどの利用者は、パッドを併用しているが、失敗も少なく、排泄の自立に繋がっている。夜間もおむつ使用の1名を除いて、トイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動、冷水や冷牛乳を提供、食事の工夫、腹部マッサージなどを駆使し便秘の解消に努めている。主治医との連携で薬剤の使用もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間的ご希望には応じられないが、気持ちよく入浴を楽しんでいただけるように入浴剤や、季節の行事的な工夫なども取り入れて、リラックス効果を期待した支援をしている。季節的なものもあろうが、最近は面倒だと拒否される方も多い。タイミングを見計らってお誘いしなおすなど工夫をしている。	職員は、常に、利用者の羞恥心やプライドに配慮し、利用者一人ひとりに合わせ、入浴支援を行なっている。拒否する人には、無理強いをせず、タイミングや言葉かけを工夫し、利用者が気持ちよく入浴出来るよう、支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠に対しての規則はなく、ご自由に入眠、起床をされている。居室での休息に対しても、引きこもりにならないよう気を付けてはいるが、心地よく休んで頂けるよう環境作りに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤は全て統一管理をしている。間違いの無いよう何十ものチェックを通過している。薬情書を職員にも私、個々の利用者の情報が全員に周知されるよう努めている。また、服薬後の観察を怠らないように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクやお手伝い、イベントなど、工夫をして変化のある生活が営めるように工夫をしているが、喜んで参加していただける利用者が固定してきている。かつての趣味も影を潜めてしまっている方が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気や体調、職員の数など、許せば散歩や外気浴などはできるが、個人的にご希望のところへお連れすることは現在のところ無理。ご家族にお願いすることになる。お願いしても協力いただけるのはごく一部の方だけになっている。お世話が家族では無理な方が増えているからかもしれない。	自然環境に恵まれ、自発的に散歩に出掛ける利用者もあり、職員が他の利用者も誘って、見守りながら支援をしている。家族に呼びかけ、弁当持参でピクニックに出かけたり、イルミネーションや花を見に行くなど、希望者が出かけている。	



岐阜県 グループホームみやまの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持は基本的にできない。お買い物ツアーの時には、個々にお持ちいただくが、何も購入できず持ち帰る方が多い。「ほしいものがない」と言われるが、行為そのものに自信がないのか、計算に自信がないのか、わからない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全て、規制はしていない。取次ぎや、お手伝いは応じている。「おてがみをかいたら？」と言っても、出せる方がいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を基本とし、利用者の作品や、共同で作った飾り物などを飾り、居心地の良い空間作りに努めている。床は危険の無いように障害物を減らし、水滴などの落ちていないように気を使う。換気に努め、明るく、温度調整をし、不快感をもたないように努めている。	共用空間の随所に、安定感のある木製テーブルや椅子、トールペイントの作品を飾っている。毎月、作り替えているカレンダーは、職員が書いた塗り絵に、利用者が色をつけている。徹底して共用の間の清掃を行ない、温度調節や換気に心掛け、居心地良く過ごせる環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不思議なもので、いつのまにか、それぞれの居場所が決まってきており、変更したり、他の人にその場が取られていたりすると銘々が不穏になることが多い。なるべく変更しないように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には新品ではなく、使い慣れたものをお持ちいただくようお話をしている。ご自宅のご自身の部屋をこちらへ移したような部屋作りに努めていただく。なじみの写真や、家具などに囲まれて、今までと変わらないような生活が営めるような支援を目指している。	居室の収納コーナーや衣装かけ、持参した馴染みの家具等、個々に使いやすく配置している。誕生祝いの色紙や、家族の写真を飾り、利用者の個性や状態に応じ、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで、さらに死角のないような作りなので、見守りがしやすく、さりげなく見守って安全を確認することができる。見張られていると思われないようにいつもさりげなくを基準としている。		